

国際セミナー

観光・ブランディングに関する国際シンポジウム

世界の潮流と観光も包含したナショナルブランディングの必要性 ～ポスト2020オリパラを見据え、「レガシー」を考える～

平成31年3月13日(水) 丸ビルホール&コンファレンススクエア 7階

主催：一般財団法人運輸総合研究所

プログラム

開会挨拶 宿利正史 一般財団法人運輸総合研究所会長

来賓挨拶 田端 浩 観光庁長官

宮川 学 外務省国際文化交流審議官

第1部 基調講演

1「国家ブランディングとその必要性」

キース・ディニー 英ダンディー大学ビジネススクール
マネジメント&マーケティング部門長

2「何故『いまさら“ブランディング”とは?』なのか?」

並木 将仁 株式会社インターブランドジャパン代表取締役社長兼CEO

3「ブランドを上手く活用する実践5カ条」

マキコ・マツダ・ヒーリー ニューヨーク市観光局 (NYC&Company)
マネージング・ディレクター

第2部 パネルディスカッション

モデレーター

金平京子 元英国政府観光庁日本・韓国代表

ショートスピーチ

「パブリック・ディプロマシーと英国政府GREATキャンペーン」

佐野直哉 元駐日英国大使館広報部マーケティングマネージャー

パネリスト

キース・ディニー 英ダンディー大学ビジネススクール
マネジメント&マーケティング部門長

並木将仁 株式会社インターブランドジャパン代表取締役社長兼CEO

マキコ・マツダ・ヒーリー ニューヨーク市観光局 (NYC&Company)
マネージング・ディレクター

キース・ディニー

並木将仁

マキコ・マツダ・ヒーリー

金平京子

佐野直哉



■セミナー概要

2020年に東京オリパラが、2025年に大阪・関西万国博覧会等が開催され、世界の注目が日本に集まるところ、我が国をブランドとして確立する絶好の機会となっています。例えばイギリスでは、2012年ロンドンオリパラを契機として始まった「グレートキャンペーン」のもと、在外の英政府機関や商工会議所が連携し、現在もなお全世界で統一的に、英国の観光やビジネス等の機会を最大化すべく各種取り組みが行われています。我が国においても、「観光誘客」だけではなく、我が国の「文化」「伝統」への共感、さらには「輸出」や「対日投資」「留学生増加」の促進等にも寄与できるよう、我が国の魅力を総力を挙げて世界に示し、ポスト2020オリパラの「レガシー」として次の世代に繋げていく必要があります。

また、訪日外国人旅行者4,000万人時代を迎え、訪日外国人旅行者の急増が、我が国の社会・経済の在り方に大きなインパクトを与えています。こうした中であるからこそ、訪日外国人旅行者の数や消費額の多寡のみならず、国際観光が、根源的且つ本質的には多面的な機能を有するものであるという視点も不可欠です。その一つとして、今日の我が国を取り巻く世界の情勢が複雑さと不透明さを増す中で、パブリック・ディプロマシー(広報文化外交)の重要性は益々高まっています。

このような問題意識のもと、観光のみならず幅広い分野で、そして公的セク

ター、民間セクターを問わず不可欠かつ重要な要素である「プレイス・ブランディング」をテーマに、英ダンディー大学ビジネススクールのデニー博士よりナショナルブランディングの哲学や世界各国の事例を、インターブランド・ジャパン社並木CEOよりブランディングの原理原則を紹介いただきました。また、ニューヨーク市観光局マツダ・ヒーリー氏から世界トップレベルのDMO (Destination Management/Marketing Organization) のノウハウを、元駐日英国大使館佐野氏からロンドンオリパラの「レガシー」について紹介いただくなど、世界の最新の潮

流、成功要因、背後にある哲学等につき講演いただきました。

また、後半のパネルディスカッションでは、国家レベル、地域レベルも含めた「プレイス・ブランディング」の意義、世界水準のDMOの在り方、官民連携や政府組織全体での統一的対応やストラクチャーの必要性、「シティプライド」「シビックプライド」としての住民を巻き込んだ意識醸成、ナショナルブランディングと観光分野との関係、先進諸外国におけるKPI (主要重要業績評価指標) の概念と具体的活用、ポスト2020の「レガシー」に向けた行動等について、活発な

議論や提言が行われました。

当日は、田端 観光庁長官、宮川 外務省国際文化交流審議官に来賓挨拶をいただくとともに、観光庁、日本政府観光局、観光関係者、在京大使館・各国政府観光局、大学・観光学会関係者、地方自治体、報道機関など約280名の方に参加いただき、盛況なセミナーとなりました。

※各基調講演者の発表のポイントについては<https://www.jterc.or.jp/events/2019/symposium190313.html>をご参照下さい。

(とりまとめ: 岩田 賢)

